エコアクション 21
環境経営レポート

対象期間 2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

筆影山から 三原市街地を望む

ブルーテクノ株式会社

広島県三原市宗郷二丁目 3 番 35 号

TEL：(0848) 67-5611

HP：http://www.blue-techno.co.jp/

エコアクション 21
認証番号 0006546

発行日：2024 年 6 月 21 日

目　　次

● 環境経営方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

● 取組の対象組織・活動・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
　　会社概要
　　事業規模
　　認証・登録の対象組織・活動

● 環境経営システム組織図・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
　　各部門の役割

● 環境経営目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

● 実績と環境経営目標達成状況・・・・・・・・・・・・・・ 5

● 環境経営目標及び計画の実績検証と次年度の取組・・ 6～18
　　本社
　　浄化センター
　　目標達成に向けた取組等
　　環境活動の取組
　　地域・社会貢献の取組

● 環境関連法規への違反、訴訟の有無・・・・・・・・・ 19

● 代表者による全体の評価と見直し・指示・・・・・・ 20～21

環境経営方針

私たちは、地域住民の健康で快適な生活環境の向上と公共用水域の水質を保全することが、地球環境の保全に寄与することと認識し、

当社の基本方針である「地域社会に貢献し、信頼される会社をめざします」を実行するため、

下水道処理施設の運転管理業務を通じて、社員一人ひとりが未来へつなぐ環境づくりのために、地球環境に配慮した行動を主体的に取り組むことで、持続可能な社会を目指した事業活動を行います。

《活動指針》

1. 当社は、具体的に次の取組を行います。

① 電力の消費に伴う二酸化炭素排出量を原単位で削減します。
② 化石燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量を削減します。
③ 廃棄物排出量の削減と、再資源化を促進します。
④ 水使用量の削減を図ります。
⑤ 毒物劇物等の化学物質を適切に管理し、適正量の使用に努めます。
⑥ 事務用品のグリーン購入を推進します。
⑦ 良好な放流水を確保することによって、水環境への負荷の低減に努め、沼田川及び瀬戸内海の環境保全に努力します。
⑧ 地域や社会に貢献した活動に取り組みます。

これらについて環境経営目標・計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。

2. 環境関連法規等や当社が約束したことを順守します。

3. 環境への取り組みを環境経営レポートとしてとりまとめ公表します。

制定日：2013（平成22）年7月1日
改定日：2022（令和4）年11月1日

ブルーテクノ株式会社　代表取締役　篠澤浩二

取組の対象組織・活動

会社概要

- 会社名　ブルーテクノ株式会社
- 代表者名　代表取締役　篠澤　浩二
- 所在地　広島県三原市宗郷二丁目 3 番 35 号
- 設立　平成 7 年 10 月 16 日
- 資本金　1,050 万円
- 売上高　40,596 万円　（2023 年度）
- 事業年度　4 月～翌年 3 月
- 事業内容　公益財団法人 広島県下水道公社からの委託を受けた
  沼田川流域下水道処理施設の運転管理
- 担当者　土井田　智雅子
- 連絡先　Tel:（0848）67-5811　Fax:（0848）67-5810
  E-mail：info@blue-techno.co.jp

事業規模

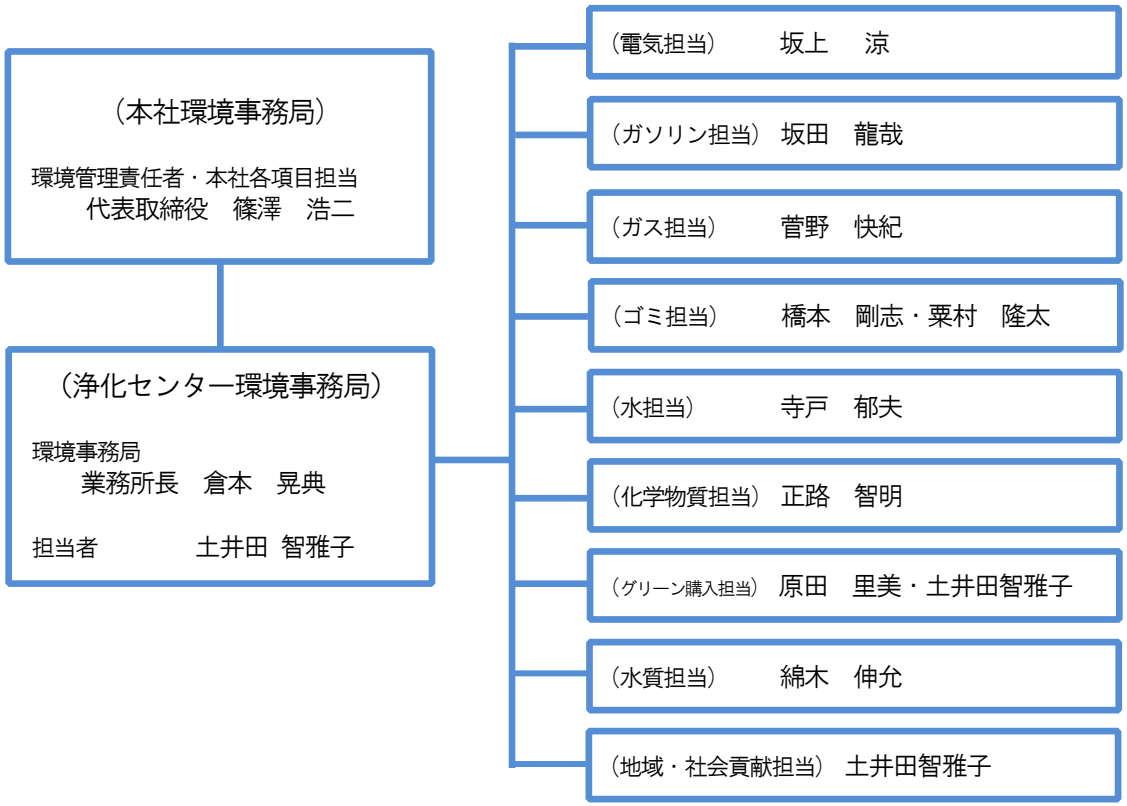
- 従業員数　24 人
- 延べ床面積　32.39 m^2（本社）　12,236.90 m^2（沼田川浄化センター）
- 処理水量　5,501 千m^3（2023 年度）

認証・登録の対象組織・活動

- 対象事業所　本社
- 事業活動　下水道処理施設の運転管理業務

環境経営システム組織図

更新日：2023 年 5 月 8 日



各部門の役割

代表者	・環境経営に関する統括責任 ・代表者による全体の評価と見直しを実施・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・法規制等の要求事項登録簿を承認 ・環境経営計画書を承認 ・環境経営活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・「環境関連法規等チェックリスト」の作成 ・環境経営目標・環境経営計画書原案の作成 ・環境経営計画の実績集計 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境関連の教育訓練の実施及び教育訓練の記録
担当者	・担当に関連する環境経営目標及び環境経営計画の実施及び取組状況の報告 ・担当の問題点の発見、是正、予防処置
全従業員	・環境経営方針の周知と環境への取組の重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的な環境経営活動への参加

環境経営目標

○　短期、中・長期環境経営目標

（2022年度もしくは2021年度の実績を基準値とし、2023～2025年度の目標を策定しております。）

項目				単位	基準値	目標値					
						短期		中・長期			
						2023年度		2024年度		2025年度	
							削減割合		削減割合		削減割合
二酸化炭素排出量	電力	浄化センター	★原単位（電力/放流量）	kWh/m^3	0.7276	0.7203	対前年度比1.0%減	0.7131	対前年度比1.0%減	0.7060	対前年度比1.0%減
				kg-CO2/m^3	0.3340	0.3306		0.3273		0.3240	
			【参考】電力量	kWh/年	3,812,591	3,774,465	―	3,736,720	―	3,699,353	―
				kg-CO_2/年	1,749,979	1,732,479		1,715,154		1,698,003	
		本社	★電力量	kWh/年	1,386	1,385	0.1%減	1,383	0.2%減	1,382	0.3%減
				kg-CO_2/年	811	810		809		809	
	燃料	浄化センター	★ガソリン（燃費）	km/L	14.18	14.18	現状維持	14.18	現状維持	14.18	現状維持
				kg-CO_2/年	1,403	1,403		1,403		1,403	
			LPG	m^3/年	29.615	29.585	0.1%減	29.556	0.2%減	29.526	0.3%減
				kg-CO_2/年	184	184		184		183	
		本社	ガソリン	km/L	15.16	15.16	現状維持	15.16	現状維持	15.16	現状維持
				kg-CO_2/年	2.894	2.894		2.894		2.894	
廃棄物排出量	一般廃棄物	浄化センター		kg/年	613.50	613.50	現状維持	613.50	現状維持	613.50	現状維持
		本社		kg/年	12.29	12.29	現状維持	12.29	現状維持	12.29	現状維持
	産業廃棄物	浄化センター		kg/年	378.60	378.60	現状維持	378.60	現状維持	378.60	現状維持
水使用量	上水道使用量	浄化センター		m^3/年	870.96	870.09	0.1%減	869.22	0.2%減	868.35	0.3%減
		本社		m^3/年	新規	―	現状確認	―	現状確認	―	現状確認
化学物質使用量	対象物質購入量	浄化センター		kg/年	対象物質購入量把握						
グリーン購入法適合商品の購入		浄化センター		品/年	グリーン購入法適合商品購入数確認						
		本社		品/年							
放流水排水基準の遵守	COD	浄化センター		mg/L	自己管理基準値以下（14.0mg/L以下）						
	BOD				自己管理基準値以下（5.0mg/L以下）						
地域貢献活動の推進		浄化センター		―	地域貢献活動を適宜実施						

※　基準値は、2022年度もしくは、2021年度の実績値とします。
（基準値を2021年度の実績値とした項目には、項目欄に★印を記載しています。）

※　浄化センターの電力の基準値及び目標値は、電力使用量ではなく、原単位（放流量1m3あたりの電力使用量(kWh)）としています。

※　基準値及び目標値の電力量二酸化炭素排出係数は、以下の通りです。
- 本社は、0.585 kg-CO_2/kWh（令和1年度 中国電力 二酸化炭素調整後排出係数）としています。
- 浄化センターは、0.459 kg-CO_2/kWh（平成30年度 新出光 二酸化炭素調整後排出係数）としています。

※　ガソリンの基準値及び目標値は、自動車燃料の使用量ではなく、燃料消費率（燃費）としています。

※　電力（浄化センター）、ガソリン（本社・浄化センター）の二酸化炭素排出量は参考値とします。

※　本社は、ガスが供給されていないため、ガス使用量削減の活動は行っていません。

※　本社の水道施設は、2023年度より戸別検針となったため、データがありません。

※　化学物質使用量は、使用量が微量なため購入量把握及び適正使用を目標としています。評価は、年間を総合して行います。

※　放流水排水基準の遵守に関しては、法定基準より厳しい自主目標基準値を設けて管理し、評価は、年間を総合して行います。

実績と環境経営目標達成状況

○　環境経営目標の達成状況及び環境経営計画の実施状況、その評価結果

項目				単位	基準値	目標値		実績		達成判定
					2022年度	2023年度		2023年度		
							増減割合		増減割合	
二酸化炭素排出量	電力	浄化センター	★原単位（電力/放流量）	kWh/m^3	0.7276	0.7203	対前年度比1.0%減	0.6802	6.51%減	○
				kg-CO_2/m^3	0.3340	0.3306		0.3546		
			【参考】電力量	kWh/年	3,812,591	3,774,465	－	3,741,816	－	
				kg-CO_2/年	1,749,979	1,732,479		1,949,486		
		本社	★電力量	kWh/年	1,386	1,385	0.1%減	1,663	19.99%増	×
				kg-CO_2/年	811	810		866		
	燃料	浄化センター	★ガソリン（燃費）	km/L	14.18	14.18	現状維持	13.47	5.00%減	×
			【参考】ガソリン使用量からのCO2排出量	kg-CO_2/年	1,403.39	1,403.39		1,697.24		
			LPG	m^3/年	29.615	29.585	0.1%減	36.79	24.24%増	×
				kg-CO_2/年	184	184		228.49		
		本社	ガソリン	km/L	15.16	15.16	現状維持	15.57	2.70%増	○
			【参考】ガソリン使用量からのCO2排出量	kg-CO_2/年	2,894	2,894		2,610.32		
廃棄物排出量	一般廃棄物		浄化センター	kg/年	613.50	613.50	現状維持	586.48	4.40%減	○
			本社	kg/年	12.29	12.29	現状維持	45.27	268.35%増	×
	産業廃棄物		浄化センター	kg/年	378.60	378.60	現状維持	343.94	9.15%減	○
水使用量	上水道使用量		浄化センター	m^3/年	870.96	870.09	0.1%減	947.18	8.75%増	×
			本社	m^3/年	新規	－	現状把握	7.00	－	-
化学物質使用量	対象物質購入量		浄化センター	kg/年	対象物質購入量把握			25.00	－	○
グリーン購入法適合商品の購入			浄化センター	品/年	グリーン購入法適合商品購入数確認			36	－	○
			本社	品/年				14	－	○
放流水排水基準の遵守	COD		浄化センター	mg/L	自己管理基準値以下（14.0mg/L以下）			－		○
	BOD				自己管理基準値以下（5.0mg/L以下）			－		○
地域貢献活動の推進			浄化センター	－	地域貢献活動を適宜実施			－		○

※　2023年度の二酸化炭素総排出量は、1,964,471.59（kg-CO2）です。

※　基準値は、2022年度もしくは、2021年度の実績値とします。

（基準値を2021年度の実績値とした項目には、項目欄に★印を記載しています。）

※　浄化センターの電力原単位は、放流量1m3あたりの電力使用量(kWh)としています。

※　本社の電力量二酸化炭素排出係数は、以下の通り定めます。

- 基準値及び目標値は、0.585 kg-CO2/kWh（令和1年度 中国電力 二酸化炭素調整後排出係数）とします。
- 2023年度実績値は、0.521 kg-CO2/kWh（令和2年度 中国電力 二酸化炭素調整後排出係数）とします。

※　浄化センターの電力量二酸化炭素排出係数は、以下のとおり定めます。（2023年度 電力会社変更）

- 基準値及び目標値は、0.459 kg-CO2/kWh（平成30年度 新出光 二酸化炭素調整後排出係数）とします。
- 2023年度実績値は、0.521 kg-CO2/kWh（令和2年度 中国電力 二酸化炭素調整後排出係数）とします。

※　電力（浄化センター）、ガソリン（本社・浄化センター）の二酸化炭素排出量は参考値とします。

※　本社は、ガスが供給されていないため、ガス使用量削減の活動は行っていません。

※　本社の水道施設は、2023年度より戸別検針になったため、今年度の評価は行っていません。

※　化学物質使用量は、使用量が微量なため購入量把握及び適正使用を目標としています。評価は、年間を総合して行います。

※　放流水排水基準の遵守に関しては、法定基準より厳しい自主目標基準値を設けて管理しています。
評価は、年間を総合して行っています。

環境経営目標及び計画の実績検証と次年度の取組

本社

① 電力使用量の削減

○ 取組内容

・退室時に不要な照明は消灯する
・コピー機（複合機）を省エネモードにする
・エアコンの設定温度を夏は室温 25℃・冬は室温 20℃に調整する

【実績検証】

「取組内容」の各項目について、年間を通して実践しました。

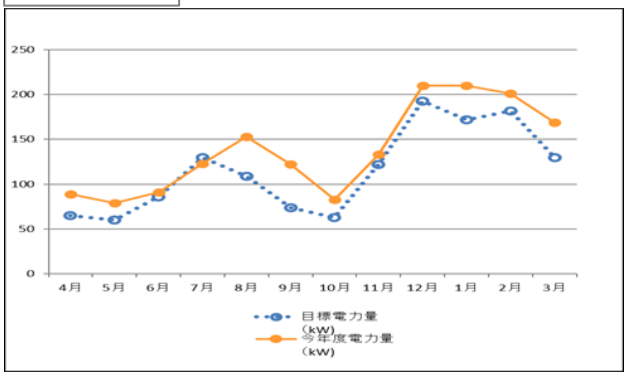
本社は事務所が小さく使用電力量が少ないため、その年の天候により電力量の増減が顕著に表れます。冷暖房使用時の外気温や湿度、作業者の体調等を考慮しながら、無理のない範囲での室温管理の取組及び使用していない電化製品の電源をこまめに切ることで電力量削減対策を行っています。

今年度は、年間を通して目標値を達成できませんでした。2023 年度は本社勤務者が 1 名増員となり、事務所の使用時間が増加したことも、電力量増加の一因と考察します。

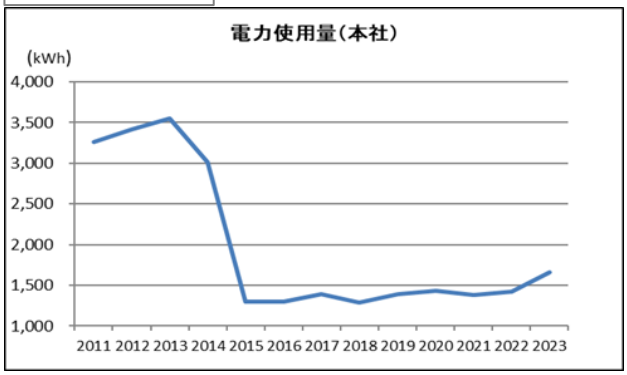
【次年度の取組み】

不要な電源を切ることや、対策効果の大きいエアコンが、効率的に活用できるよう取り組んでいきたいと思います。また、クールビズ・ウォームビズの取り組みも推奨していきます。

2023 年度



年度ごとの推移



② 自動車燃料の削減（燃費の向上）

○ 取組内容

・エコドライブの推進

【実績検証】

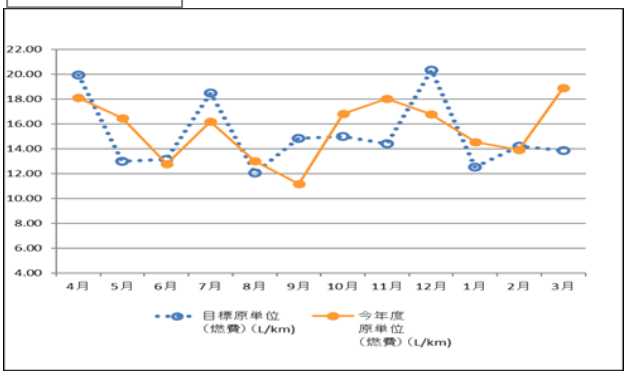
目標値である 2022 年度実績値（15.16km/L）に対し、今年度は 15.57km/L と、目標値を達成することができました。

年間推移のグラフを見ても、2020 年度からは少しずつではありますが、燃費が改善されています。営業車として使用しているため、使用状況で燃費が大きく変動しますが、『エコドライブの推進』の取組ができた結果と考察します。

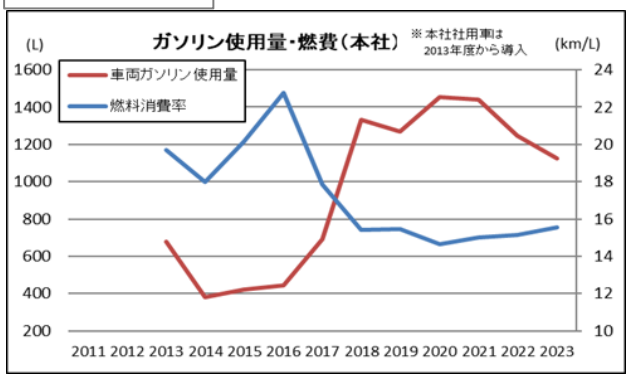
【次年度の取組み】

急加速の抑制やエアコン設定温度及びアイドリングの見直し等、エコドライブを推進し、エコドライブを習慣化することで燃費改善に繋げていきます。

2023 年度



年度ごとの推移



③ 一般廃棄物の削減

○ 取組内容

・裏紙の使用と両面印刷の活用
・ゴミの分別，リサイクルの実施

【実績検証】

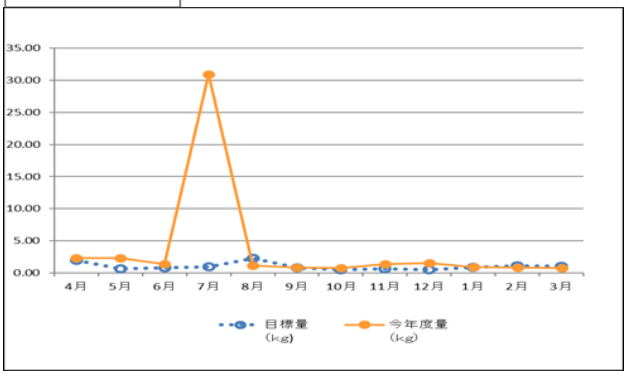
裏紙の使用・両面印刷の活用、ゴミの分別等に取り組みましたが、目標値を超える結果となりました。

年間を通しては目標値付近を推移していましたが、保管年数を超えた書類等の廃棄物が７月に発生したこと、今年度は本社職員が１人増員されていたことが、目標値を超えた原因と推察します。

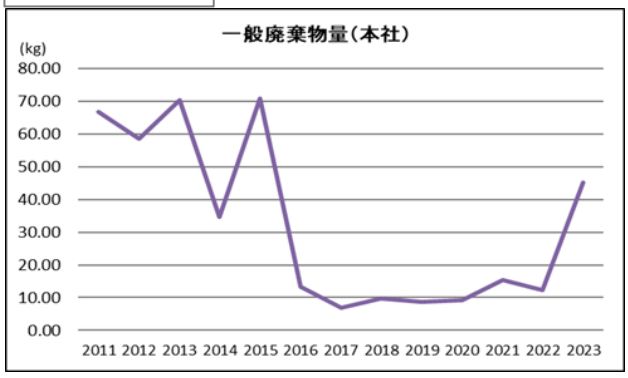
【次年度の取組み】

3S 活動・改修工事などで一時的に廃棄物が増加する場合もありますが、引き続き感染症対策を講じつつ、両面印刷・裏紙の使用や、資源化の取り組みなどで廃棄物の減量に努めてまいります。

2023 年度



年度ごとの推移



④ 上水道使用量の削減

○ 取組内容

・節水を心掛ける

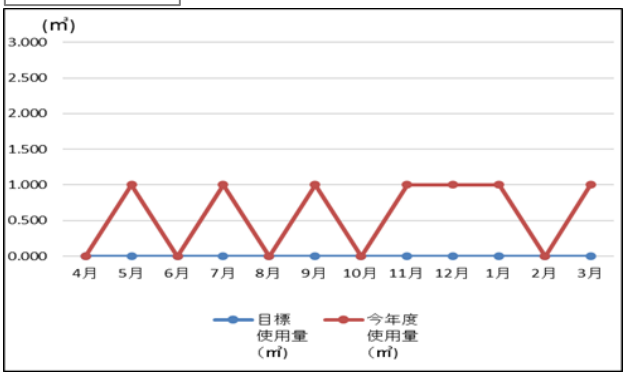
【実績検証】

今年度からビル供用の検針から戸別検針となったため、今年度は、現状把握を行いました。

【次年度の取組み】

今年度の実績値と比較して評価を行いたいと思います。蛇口を確実に閉める、水を出しっぱなしにしない等、基本的な対策を講じ、節水を心掛けていきます。

2023 年度



⑤ グリーン購入の推進

○ 取組内容

・事務用品は、グリーン購入法適合商品を購入する

【実績検証】

グリーン購入は、2017 年度版のガイドラインでは必須項目ではなくなったため、事務用品に関するグリーン対応品購入数の把握を行っています。

今年度のグリーン購入法適合商品購入数は、全購入数 15 品の内の 14 品となりました。

【次年度の取組み】

購入時にはグリーン購入法適合商品の有無を確認するとともに、買い替えを行う場合は、可能な範囲でグリーン購入法適合商品へ移行することを心掛けていきます。

浄化センター

① 電力使用量の削減（放流水原単位の削減）

○ 取組内容

・退室時に不要な照明は消灯する
・エアコンの設定温度を夏は室温 25℃・冬は室温 20℃に調整する
・機器運転の効率化（停止可能な機器の停止など）を図る。

【実績検証】

浄化センターは、電力使用量ではなく、原単位（放流量 1m3 あたりの電力用量(kWh)）の削減を経営活動として行っています。

2023 年度は契約電力会社が変更したため、基準年（2021 年）と今年度の換算係数は、それぞれの契約電力会社の値にしました。それ故、二酸化炭素排出量は基準値よりも 6.17%増加しましたが、活動項目の原単位で比較すると、基準値に対して 6.51%の減少となり、1.0%削減としていた目標値を達成することができました。

今年度は、従来使用していた反応タンク１池ではなく増設された３池を 11 月から運用した結果、散気効率が良くなったことで、基本的にブロワの運転が２台から１台となったことが、大幅な削減に繋がったと考察されます。

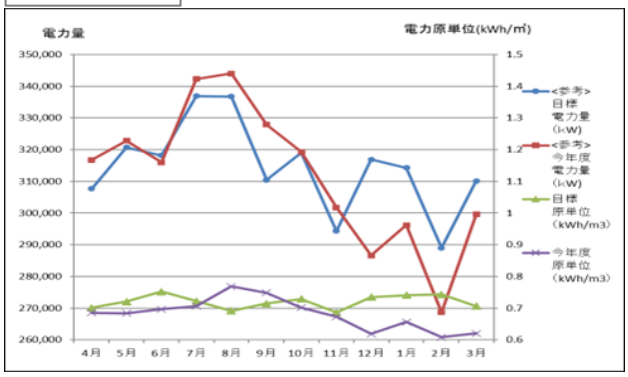
事務所などの施設運用以外の電気削減活動においては、退室時の消灯、エアコンの温度管理などの節電活動を行いました。

【次年度の取組み】

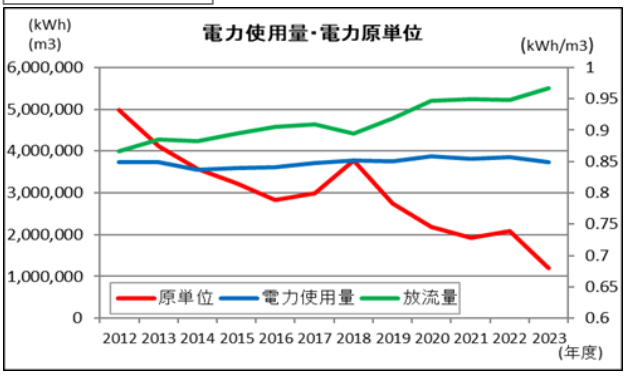
施設運用に必要な電力は、処理する水質状況によって施設の稼働状況が変わりますが、弊社で規定している放流水排水基準値の水質を保ちながら、機器運転の効率化を図っていきます。

事務所などにおいては、退室時の消灯、エアコン・空調設備の運転停止及び設定温度の管理など、実行できる行動の積み重ねを継続することで、節電を推進していきます。

2023 年度



年度ごとの推移



② 自動車燃料の削減（燃費の向上）

○ 取組内容

・エコドライブ定着化
・場内は、徒歩や自転車での移動を推進する。

【実績検証】

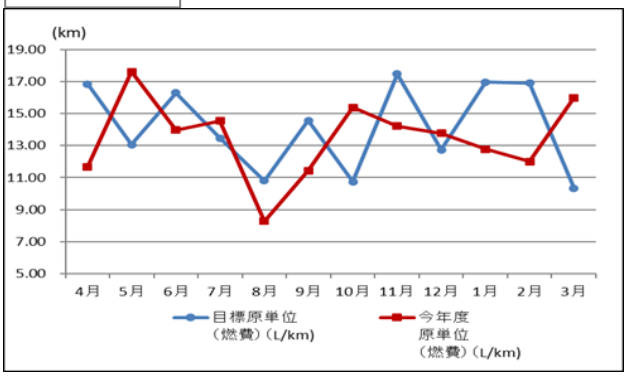
自動車燃料に関しては、ガソリン使用量ではなく、燃費の向上を活動項目としています。全社員への「エコドライブ」の啓発を図り、定着化に向けて取り組むことができました。

しかし、目標値（14.18km/L）に対し今年度は 13.47km/L という結果となり、目標は達成できませんでした。特に、夏季の燃費が悪い結果となってしまいました。参考値のガソリン使用量が増加したのは、点検業務の増加が原因と考察します。

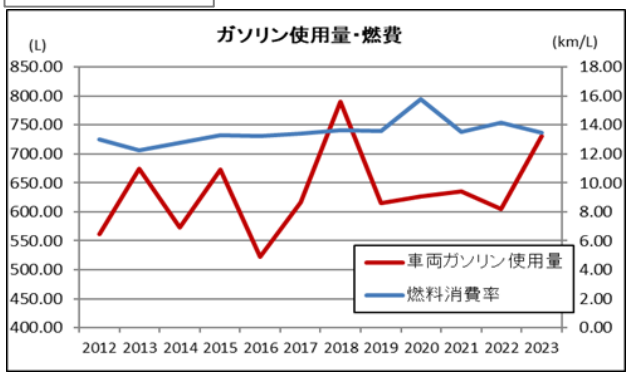
【次年度の取組み】

「エコドライブ」運転を実践することはもちろんであるが、夏季のエアコン対策として、少しの間窓を開けた後にエアコンを使用する、弱冷で使用する等、各自でできることを実践していくことで燃費向上に繋げていきます。また、場内は、積極的に徒歩や自転車で移動することを推奨していきます。

2023 年度



年度ごとの推移



③ LPG 使用量の削減

○ 取組内容

・給湯器温度の適温化を図る。

【実績検証】

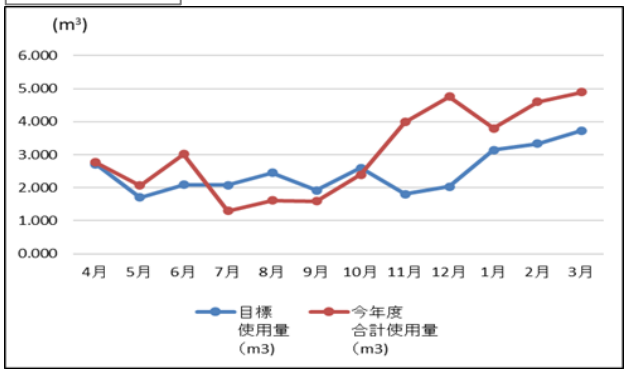
ガスは下水道公社様が使用している給湯器の使用量も合算しているので、下水道公社様の使用状況次第では、使用量増加の可能性があります。

使用時は、給湯器の設定温度を確認する取組みを、年間を通して行いましたが、夏季以外は、目標値を超えてしまいました。

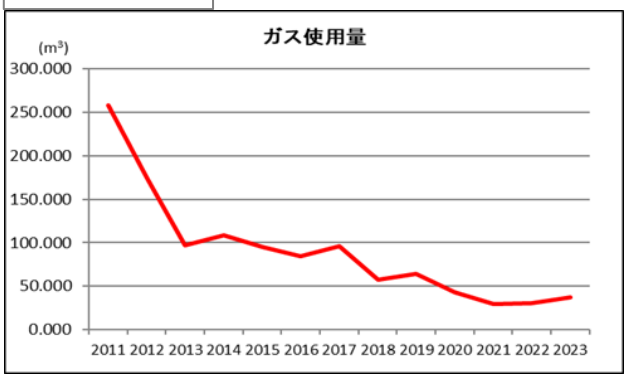
【次年度の取組み】

小さな心がけで使用量も変わってくると思われます。お湯を出しっぱなしにしない、給湯器の設定温度を上げすぎないなど、各自ができる活動を積み重ねていくことで、削減意識の定着化を目指します。

2023 年度



年度ごとの推移



④ 廃棄物の削減

○ 一般廃棄物・産業廃棄物　取組内容

（一般廃棄物）
・書類の簡素化・電子化、複合機の機能の活用
・3S の実施
（産業廃棄物）
・整備及び再使用の実施
・ゴミの分別、リサイクルの実施

【実績検証】

（一般廃棄物）

タブレット・パソコン端末の利用や、3S 活動に取り組みました。

今年度は施設内の大掛かりな整理整頓に伴う廃棄物が発生した場合を除いて、目標値を達成することができました。

（産業廃棄物）

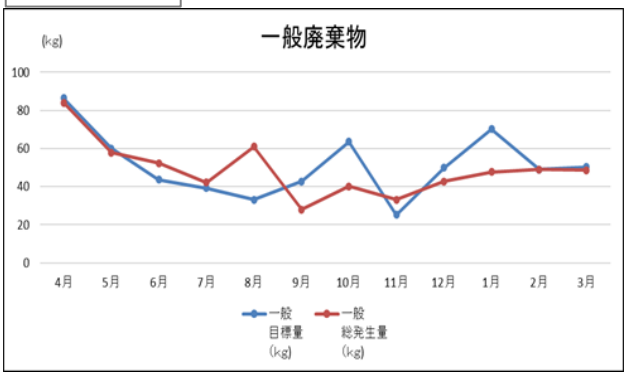
3S 活動に取り組むことで廃棄物の減量化を推進することができ、目標値を達成することができました。

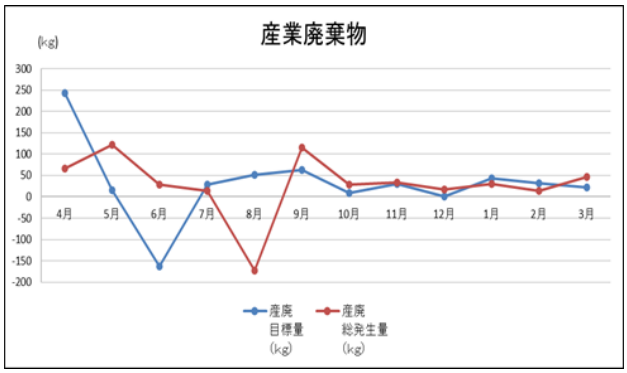
修理及び交換業務に伴う機器・部品の廃棄物重量は、作業内容によって大きく変動します。基準年の動向にあわせて廃棄量の管理を行っていくことはできませんが、施設の老朽化及び経年劣化に伴う修理業務が年々増加していくと推察されるため、廃棄物が増加していく可能性があることも、視野に入れておく必要があります。

【次年度の取組み】

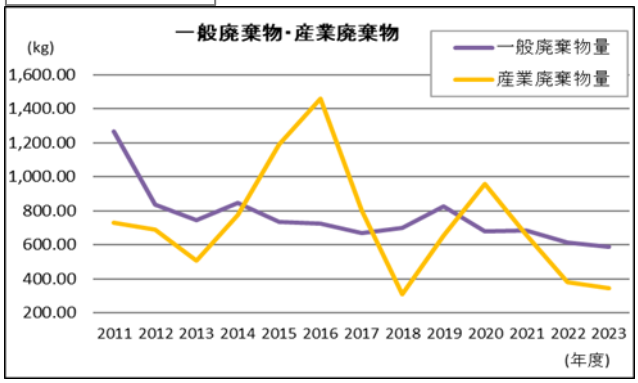
不要な廃棄物を出さないよう心掛けていくとともに、3S 活動・分別の徹底、IT（パソコン・タブレットなど）活用による書類の簡素化に取り組んでいきます。

2023 年度





年度ごとの推移



⑤ 上水道使用量の削減

○ 取組内容

・節水の徹底
・処理水の利用

【実績検証】

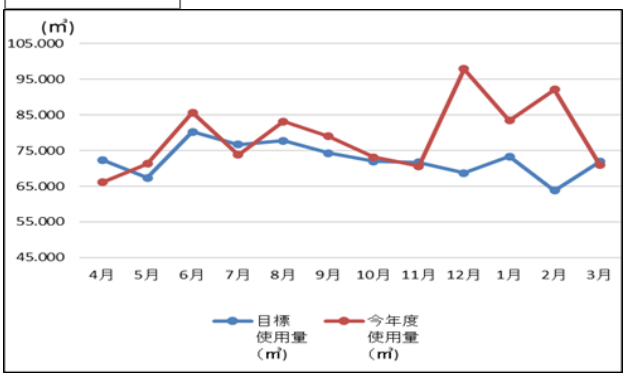
浄化センターの上水は、広島県下水道公社様と共有のメーターを使用しているため、社内のみの使用量把握ができませんが、社員一同で、使用後の蛇口を確実に閉める、水を出しっぱなしにしない等の節水活動に取り組みました。

今年度は上水を分岐させて使用するような業者は入らなかったのですが、特に冬季の上水使用量が増加し、目標値を達成することができませんでした。

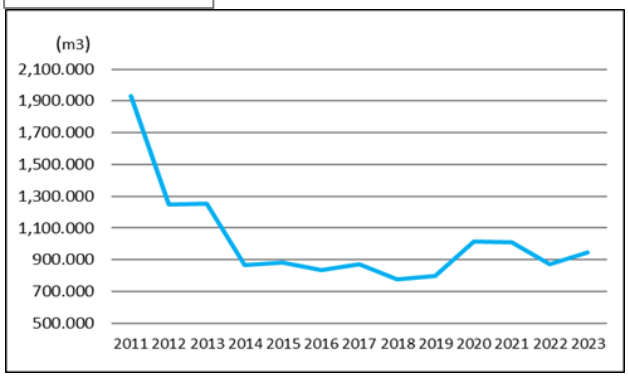
【次年度の取組み】

2023 年度冬季の上水使用量増加の原因を検証していくとともに、樹木や花の水やりは処理水を利用する、上水使用時は水の勢いを調整し、蛇口を確実に閉める等、衛生的な作業環境を確立しながら取り組むことのできる節水活動を継続することで、節水意識の定着化を目指します。

2023 年度



年度ごとの推移



⑥ 化学物質使用量の把握

○ 取組内容

・特定化学物質が含まれている塗料の購入量の把握を行う

【実績検証】

使用量が微量なため管理は行わず、購入している塗料に関しての PRTR 法に記載されている化学物質量の把握を目標として掲げ、塗料購入量の把握及び塗料使用の効率化を目標達成手段として挙げています。

今年度の塗料の購入は 25kg（PRTR 法に記載されている化学物質 0.78kg）でした。

【次年度の取組み】

塗料使用の効率化及び適正な管理に努めてまいります。

⑦ グリーン購入の推進

○ 取組内容

・事務用品は、グリーン購入法適合商品を購入する

【実績検証】

グリーン購入は、2017 年度版のガイドラインでは必須項目ではなくなったため、事務用品に関するグリーン対応品購入数の把握を行っています。

今年度のグリーン購入法適合商品購入数は、全購入数 47 品の内の 36 品となりました。

【次年度の取組み】

購入時にはグリーン購入法適合商品の有無を確認するとともに、買い替えを行う場合は、可能な範囲でグリーン購入法適合商品へ移行することを心掛けていきます。

⑧ 放流水排水基準の遵守

○ 取組内容

・良好な放流水の確保のために、流入水及び放流水の水質状況に応じた運転管理を行う

【実績検証】

年間を通して、流入水・放流水の水質状況に応じた運転管理を行いました。

11 月中旬から、水処理施設反応タンクの 1 池と 2 池の運転管理から、2 池と増設された 3 池の運転管理に変更しました。3 池は、1 池よりも散気効率が良いため使用電力量が少なくてすみ、その結果、施設全体の電力量削減に繋がりました。3 池に変更したことにより、今までよりも効率的な管理が行えています。

【次年度の取組み】

着色した下水が流入してきた場合、反応タンクでは処理されず放流水の COD を上げてしまうため、どのような条件の時に COD が一番削減できているのか検証することで、着色下水が流入してきた場合でも基準値を守れるように努めてまいります。

反応タンクの 3 池は運転を始めて間もないので、色々なデータを取って今後の運転に役立てていきます。

流入水の条件によっては生物処理をすることが難しい場合も推測されますが、処理水量と MLSS を調整しながら、適切な運転管理に取り組んでいきます。

⑨ 地域・社会貢献活動

○ 取組内容

・地域社会に貢献した取り組みを行う

【実績検証】

年間を通して、地域や社会に貢献した取り組みを行うことができました。

【次年度の取組み】

会社周辺の清掃活動、落ち枝葉等を利用した堆肥化、ペットボトルキャップや使用済み切手の収集などを通して、地域や社会に貢献した取り組みを推進していきます。

目標達成に向けた取組等

（1）職員に対する環境、資質向上等の意識の啓発

教育訓練の一環として、研修を実施しました。

- （一社）ヘルスケアマネジメント協会による講習
  「健康で働くために」（2023 年 10 月）
  令和５年度 中国、四国ブロック安全・衛生講習会（2024 年２月）
- 社内研修
  「エコドライブ１０のすすめ」（2023 年６月）
  「エコアクション 21 について」（2023 年 10 月）
  「冬季省エネ対策」（2024 年２月）

（2）環境に関連した専門教育の実施

環境関連法規制等に関連した、専門教育を実施しました。

- 広島県一斉防災教育（「マイタイムライン」の作成への取組）（2023 年６月）
- 水質教育「高分子凝集剤のはたらき」（2023 年６月）
- 外部講習「摩擦伝道ベルトの省エネ講座」（2023 年７月）
- 機械教育「ボルト・ナットについて」（2023 年 10 月）
- 電気教育「日常巡視点検のポイント」（2024 年１月）
- 調査研究発表会で発表「着色水流入時の PAC 注入による COD の低減」（2024 年３月）

（3）環境上の緊急事態の対応に関する訓練

各対応手順書等を作成し、それに沿って訓練（テスト）を実施し、改善すべき点があれば、手順書を見直すことで、緊急事態に対応できるよう取り組んでいます 。

- 防水板設置訓練（2023 年６月）

- 場外マンホールポンプ所における発電機持ち込み訓練（2023 年７月）

- 広島県「みんなで減災」一斉地震防災訓練（2023 年 11 月）

- 危機管理訓練（公社合同）（2023 年 11 月）

- 機器故障対応訓練（2023 年 11 月）

- 消防訓練（2024 年２月）

環境活動の取組

○　社員共有パソコン及びLINE WORKSを用いて、問題点も含めた報告・連絡に関しての情報共有を行っています。また、EA21掲示板や安全衛生活動掲示板に、環境経営活動の進捗状況や、啓発資料などを掲示しています。

○　節電・節水・ゴミ分別のステッカー等を貼って、環境活動の周知徹底を図っています。

＜節電＞

＜節水＞

＜ごみ分別＞

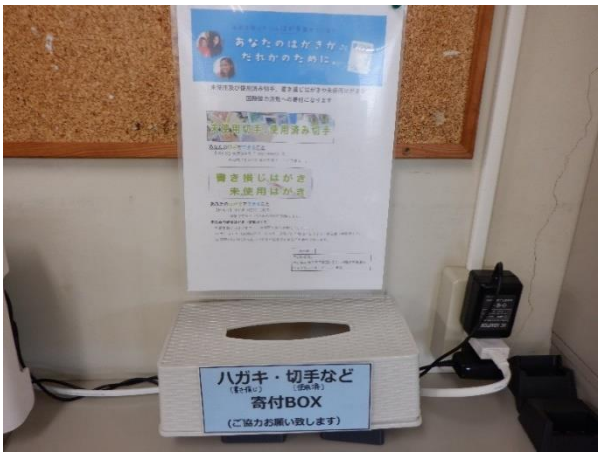
地域・社会貢献の取組

○　浄化センター周辺の清掃・草刈りを行っています。また月に一度、（公財）広島県下水道公社三原支所職員様と合同で、清掃作業を実施しています。
　この場所は、ジョギングや散歩などで多くの方が利用される場所です。今後も地域の方々に、心地よい時間を過ごして頂けるよう、美観に努めてまいります。

○　場内の草刈で発生した草及び清掃時に発生した落ち枝葉などを利用して堆肥を作っています。
　出来上がった堆肥は、プランターや、ビオトープ周辺に植える花の堆肥として活用しています。

○　浄化センターの正門付近にプランターを設置し、四季折々の花を植えています。
　一般見学の方や道行く人たちの癒しになるよう努めていきたいと思います。
花の水やりは、処理水を利用しています。

○　書き損じはがき、未使用・使用済みの切手を集めて、「特定非営利活動法人シャプラニール」に寄付しています。
国際協力活動への一助になれば幸いです。



○　ペットボトルのキャップを集めています。
2kg（約 1,000 個）で一人分のポリオワクチンの支援に繋がります。
ワクチン作成の一助になれば幸いです。

○　社用車に防犯パトロールのステッカーを貼っています。社用車での走行時には、地域の防犯活動も併せて行っています。
　また、緊急時の対策として、場外点検時に通常使用する社用車内に AED（自動体外式除細動器）を搭載しています。

○「三原市の芸術文化振興に貢献したい」という思いを、三原市芸術文化センター（ポポロ）で行う芸術文化事業などの支援にいかす活動（ポポロプライド『企業メセナ活動』）に賛同しています。その取り組みが顕彰され、ポポロのホワイエに顕彰板プレート（パネルスタンド）が設置されています。

環境関連法規への違反、訴訟の有無

当社に適応される環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、違反は、ありませんでした。
また、関係機関等からの指摘、苦情及び訴訟もありませんでした。

法規等の名称	該当する要求事項	遵守評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	分別排出・排出量の抑制	○
下水道法	水質測定結果の記録・保管	○
水質汚濁防止法 (瀬戸内海環境保全特別措置法)	排出基準の遵守	○
	総量規制基準の遵守・測定記録	○
	水質測定結果の記録・保管	○
騒音規制法	法令基準の遵守	○
振動規制法	法令基準の遵守	○
電気事業法	電気工作物の保安規定の順守	○
	電気工作物の工事、維持及び保安の監督	○
消防法	Ａ重油地下タンク貯蔵所及び保管庫の適正管理	○
毒物及び劇物取締法	毒物及び劇物の適正保管管理	○
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律	第一種特定製品の点検・適正管理	○
化学物質排出把握管理促進法	性状及び取扱に関する情報（ＳＤＳ）の受取	○
地球温暖化対策推進法	施設内設備の点検・適正管理	○
水循環基本法	健全な水循環への配慮	○

代表者による全体の評価と見直し・指示

○　2023 年度の活動を総括すると、社員 1 人ひとりが「エコアクション 21」の理念を理解し、取り組むことの大切さを認識した上で、意欲的に活動しましたが、結果として、以下の項目が目標未達成となりました。

本　　社　：『電力の削減』、『一般廃棄物の削減』

浄化センター：『自動車燃料の削減（燃費の向上）』、『ガス使用量の削減』、『水使用量の削減』

○　2024 年度：2023 年度 目標未達成項目の対策について

＜本社＞

・電力量の削減

クールビズ・ウォームビズを推奨し、空調設備を適切な温度、湿度で使用する取り組みを行っていきます。

・一般廃棄物の削減

IT（パソコン・スマートフォトフォンなど）活用による書類の簡素化に取り組むとともに、両面印刷や裏紙の使用及び分別の徹底等、3S 活動の取り組みを継続して行っていきます。

＜浄化センター＞

・自動車燃料の削減（燃費の向上）

車両使用時の効率的な走行経路の検討及びエコドライブを徹底することで、燃費の改善に努めてまいります。

・ガス使用量の削減

年間を通して設定温度を一定にするのではなく、状況に応じて柔軟に設定温度を切り替える取り組みを行っていきます。

・水使用量の削減

蛇口を確実に閉める、水を出し過ぎない等の基本的な取り組みを積み重ねていきます。

○　2024 年度：目標設定について

＜目標達成項目＞

2023 年度を基準年とし、実績値を基に目標値を算定します。

＜目標未達成項目＞

2023 年度の環境経営計画の実績状況を基に、基準年を設定し、目標値を算定します。

1．2022 年度を基準年とする

・本社：電力量及び一般廃棄物削減

→　2023 年度のみ、人員が増員していたため。

2．2023 年度を基準年とする

・浄化センター：自動車燃料の削減（燃費の向上）

→　2023 年度から、場外点検業務が増加したため。

：ガス使用量及び水使用量の削減

→　下水道公社様と共用のため前年度を目標値とし、状況を把握していく。

毎年基準年が移行する形になりますが、前年度より削減していこうという主旨で活動を行っていきたいと思っております。

○　2024 年度：取り組み状況など変更予定について

- 浄化センターの契約電力会社が、中国電力㈱から㈱イーセルに変更
- 本社、浄化センターともに、電力量二酸化炭素排出係数を、令和 3 年度（2020 年度）の調整後排出係数（令和 5 年 1 月 24 日公表_R5.5.26 一部修正、R5.6.20 補正率追加、R5.7.18 一部追加・更新）へ更新して経営活動を行う。

温暖化防止・環境保全問題は、すごく大きなテーマで自分たちには何もできないような気がしますが、日々の何気ない『気付き』からの行動が必要不可欠であり、1 人ひとりが、まずは自分にできることから始めてみることが重要であると考えます。

来年度も、全社員が協力して、『小さなエコ活動の積み重ね』を大切にしながら業務を行っていき、持続可能な社会を構築できるよう努めてまいります。

ひろしま企業健康宣言
健康づくり優良事業所